

令和5年度第1回岡崎市放課後児童クラブ支援員研修会レポート

【日時】 2023年6月8日（木）9時30分～11時30分
【会場】 岡崎市役所福祉会館 6階大ホール
【内容】 「配慮が必要な児童への育成支援について」
【講師】 1日目：木全和巳さん（日本福祉大学）、2日目：佐々木将芳さん（静岡県立大学）

【クラブ】（ あおぞらクラブ ）

【名前】（ 寛 由衣 ）

本日の研修で心にのこったことや気づいたことや学んだこと、今後の実践に活かしていきたいことなど、感想もふくめてお書きください（自由記述）。

“言葉に頼りすぎると、子どもたちはくるしくなる”という先生の言葉に、はっと気づかされたことがありました。

事例に出ていた子が怒ってしまったとき、1人になれる場所で落ち着くまですごし、そのあと「何か嫌なことがあった？」と直接的に問いかけたり、「こういうこと？」「ああいうこと？」といくつか選択肢を挙げてみたり、様々な声掛けをしていました。しかし、“言葉に頼りすぎると、子どもたちはくるしくなる”という言葉聞いて、今思い返せば、その子のことがわからない、なんで怒れてしまっているのかわからない、怒れている理由が知りたいという思いが、私自身強すぎたのではないかなと思いました。

グループワークの最中に、先生から「100点を取れなくて怒ることって典型的なんじゃない？」「できない自分が嫌だったり、周りにはできるのに自分はできてないと思っているかもしれないよね」というアドバイスをいただき、自閉症スペクトラムという診断を受けながらも、1年生から「みんなとちがうのは嫌だ」という理由で、普通級に通っているという話しをお母さんから聞いていたことを思い出すとともに、彼がそのような思いを抱えているとするならば、理由を知りたいという指導員の気持ちは“自分はみんなみたいにできていない”と思わせてしまっているのかもしれないと思いました。

これからはまず、「みんなも困っているときは指導員に助けを求めているし、指導員に相談しているんだよ」ということを知ってもらえるようにしていきたいなと思いました。私だけでなく、現場にいる指導員が共通で伝えてみたり、その中で話し始めてくれるのを待ってみてもいいのかなと思いました。ケンカになってしまっている相手の子への伝え方なども丁寧に考え、その子のことを子どもたちにもわかってもらえるようにしつつ、相手の子たちの思いも尊重していきたいと思います。

※提出されたレポートは、当会のホームページや広報誌に掲載する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

※×切は、研修終了後、2週間以内です。常勤・専任指導員に手渡し、または、okazakigakudou@yahoo.co.jp までお送りください。